

有静岡県幼児教育の質向上を目指して

わっ！びょん通信



発行・編集

静岡県幼児教育センター

静岡県幼児教育の理解・発展推進事業

都道府県協議会を開催しました！

9月8日（火）、静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」で「静岡県幼児教育の理解・発展推進事業（都道府県協議会）」を開催しました。昨年度までは、静東・静西の2会場で開催していましたが、今年度は県内から参加者が一堂に会し、オンデマンド配信視聴も含め、487人が参加しました。会場は2階席も含め、ほぼ満席で、「幼保小の円滑な接続」に向けた関心の深さや熱意が感じられました。



架け橋期の重要性についての学びが広がりました

島田中央幼稚園と島田第五小学校が、合同研修会、保育・授業参観などの連携を重ねることで、こどもたちが安心して就学し、学びが継続され、主体的な生活につながっている様子が話されました。また、職員間も学び合い、リスペクトし合いながら連携を進め、島田市教育委員会がそれを支えている実践報告となりました。

「こどもの視点から接続を考えることの大切さ」や「幼児教育を小学校教育に合わせることで、小学校が幼児教育の方法を取り入れることだけでもない。互いの教育を知ることによって、それぞれが自分たちの教育を問い直す営みとしての連携の大切さ」などについて、具体例を交えてお話してくださいました。

特に小学校との交流は、「幼児にとっては見通しと憧れ」に、「児童にとっては他者意識・自己有用感」につながりやすいことなど、連携の意義、重要性が語られ、学びが多い時間となりました。

令和8年度の日程

○実践発表

「子どもの育ちをつなぐ

～架け橋期の幼小のとりくみ～」

学校法人島田中央学園認定こども園島田中央幼稚園
島田市立島田第五小学校
島田市教育委員会

○講演

「幼保小の円滑な接続の推進に向けた
架け橋期の教育・保育の在り方」

講師：武蔵野大学 教授 箕輪 潤子 氏

○分科会

- ・幼児教育と小学校教育の学びの繋がりについて
- ・架け橋期のカリキュラムの作成・実施について

○分科会○ 「冬の遊び」をテーマに、学びのつながりについて協議しました



分科会では、幼小の教員が同じグループになり、静岡県版「架け橋期のカリキュラム作成の手引き」を使いながら、園での遊びと、小学1年生の生活科の授業での「こどもの姿」や「手立て」をもとに、話し合いました。



一参加者の声一

保育教諭



園での体験の積み重ねが、小学校以降のこどもの育ちにたくさん繋がっていることを再認識することができました。小学校の先生方とこどもの姿や育ち、学びについて、今回の研修のように話し合う機会を作れたらと思いました。また、園内でも、こどもの体験、経験についてや、資質能力の育ちに視点を置いて、話し合いをより深めたいと感じました。

- ・カリキュラム作成にあたっては、互いにこどもの姿や活動を考え、こどもを真ん中にして、両職員で話し合っていくことが大切であることを再確認しました。カリキュラムを作って終わるのではなく、互いの教育と一緒に考えていけるような連携を、今後は目指していきたいと感じました。
- ・本校は、こども園との地理的環境が近いということもあり、比較的交流活動が多いと感じていました。しかし、それは、こども同士の交流であり、職員同士の対話を基盤とした交流はほとんどないことに気付きました。協議会をとおして、来年度以降の年間計画に、教師の交流の場を設定するの必要を感じました。

小学校教諭

